

## 2017 年度 小委員会活動成果報告

(2018 年 2 月 16 日作成)

小委員会名	環境行動研究小委員会	主 査 名：橋 弘志 就任年月：2016 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (計画基礎運営委員会)	委員長名：大原 一興 主 査 名：山田 哲弥
設 置 期 間	2016 年 4 月 ～ 2020 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境行動研究的視点から、実際に体験される環境・場所の質を分析・評価するための理論構築を行うとともに、人と環境との豊かな関係を紡ぎ出す環境・場所の創出・維持を目指す。</li> <li>・環境行動研究に関する研究会の開催</li> <li>・居場所づくり・利用・維持・管理の方法論に関する検討</li> <li>・北欧の環境・デザインから環境行動研究の理念と実践とを融合する知見の導出</li> <li>・文献・情報源の整理とデータベース作成</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	橋弘志 (実践女子大学)、岩佐明彦 (法政大学)、水村容子 (東洋大学)、林田大作 (大阪工業大学)、諫川輝之 (東京都市大学)、伊藤俊介 (東京電機大学)、大野隆造 (東京工業大学)、垣野義典 (東京理科大学)、小林健治 (摂南大学)、鈴木毅 (近畿大学)、田中康裕 (ハネウェル居場所ハウス)、西田徹 (武庫川女子大学)、前田薫子 (東京大学)、松原茂樹 (大阪大学)、山田あすか (東京電機大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>「まちの居場所」研究 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な「まちの居場所」における人間と環境の関係を捉える方法と理論の錬成</li> <li>・居場所環境の計画・デザイン・利用・維持・管理のための実践的な知見の抽出</li> </ul> <p>北欧における環境デザイン WG</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北欧の環境デザインを対象に、環境と社会システムを包括的に捉え、環境行動研究の実践的・理念的知見を抽出するとともに、その成果を情報発信する</li> </ul>	
2017 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s17/">http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s17/</a>

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	小委員会 3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	

<p><b>目標の達成度</b> (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 環境行動研究に関して、「場所をつながる・場所とつながる」を著した社会学研究者を招いての研究会を開催し、分野横断的な議論をおこなうことができた。</p> <p>2. 「まちの居場所」研究 WG が中心となり、引き続き「まちの居場所をめぐる論考」の書籍の出版に向けて最終的な編集活動に取り組んだ。</p> <p>3. 北欧の環境デザイン WG が中心となり、北欧をフィールドとした環境行動研究の収集、整理を行い、また情報発信のための枠組みの検討を行った。</p>
<p><b>委員会活動の問題点・課題</b></p>	<p>1. 委員のスケジュールを合わせることが難しく、委員が集まって議論する時間を十分にとることができず、議論が進まなかった。次年度では、あらためて環境行動研究の理念的・実践的な理論構築に向けて、議論の時間を十分にとれるよう、活発な活動を進めていく。</p> <p>2. 「まちの居場所」研究 WG で進めている「まちの居場所をめぐる論考」を出版し、合わせて公開研究会を開催する。</p> <p>3. 各 WG の成果をまとめ、情報発信に努める。</p>